

各居宅サービス担当者様

うえるびーいんど

平成28年 11月5日

第316号

ウェルビーイング (well-being) 身体的にも精神的にも社会的にも良好に「その人にとってより良く生きていく」ということを意味する言葉です。
この紙面において、医療・介護に関する情報を
お伝えしていければと思っています。



ケアプラン作成に人工知能 (AI) 活用を検討へ

先月、将棋のタイトル戦に出場予定だったプロ棋士が、スマホの将棋ソフトでカンニングしていた疑惑が発生。出場停止処分となり、大会直前に挑戦者が変わるという前代未聞の事態があったことを覚えているでしょうか。

人工知能 (AI) は日々進化しており、最近では、新聞の1面記事を書いたり、ヒットチャートに上る楽曲の作曲まで行えるようになっていきます。

政府は、今後の成長戦略の司令塔として発足した「未来投資会議」において、医療・介護分野での情報通信技術 (ICT) の積極的な活用を打ち出し、その中で、ケアプランを作成する過程で人工知能 (AI) の活用を検討する方針を明らかにしました。

人工知能 (AI) を活用することで、自立支援の観点で質の高いサービスを増やすことや、業務を効率化して職員の負担を軽減することなどにより、今後のニーズに応えられる体制の構築につなげたいとの考えのようです。

しかし、個々の状態に合った最適なケアプランを人工知能 (AI) に作らせるためには、精度の高いデータの収集と、利活用のための基盤が必要となります。また、精度の高いデータを得るには、全国レベルでの介護手法の標準化と、それらに個別性を加味した”最適な介護”を考える必要があるため、この”最適な介護”のあり方についても今後検討していく方針だということです。

ケアプラン作成に人工知能 (AI) を活用する動きは、すでに民間でも出てきており、今年度の厚労省による老人保健健康増進等事業では、ケアプラン策定における人工知能導入の可能性について調査する事業が採択されています。

ただ、「尊厳に通じる価値や文化、生活環境などは人でなければ分からない」「ケアマネジメントのように本質的にできる部分とできない部分があることに対しては、周囲が十分理解したうえでないと人の支援が無機質なものになる」などの意見もあり、行き過ぎた情報通信技術 (ICT) の利用を憂慮する声もあがっているようです。

通所リハビリから訪問診療まで

在宅サービスのことは、何でもご相談下さい。

在宅で生活していく皆さんを応援します！



春日部厚生クリニック

TEL 754-4313
介護連携室 根岸